

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	公共交通対策特別委員会		会議場所 第3委員会室 担当職員 鈴木 智
日 時	平成30年11月16日(金曜日)		開 議 午後 1 時 30 分 閉 議 午後 2 時 40 分
出席委員	◎福井 ○小島 酒井 田中 小松 (欠席:明田)		
執行機関出席者	【まちづくり推進部】竹村部長 [都市計画課]関口課長 [まちづくり交通課]伊豆田課長、川内主幹、葛井主任		
事務局出席者	片岡事務局長、鈴木議事調査係長		
傍聴者	市民0名	報道関係者0名	議員0名(一)

会 議 の 概 要

1 3 : 3 0

1 開議

[福井委員長 開議]

[議事調査係長 日程説明]

[まちづくり推進部 入室]

1 3 : 3 2

2 案件

(1) 地域公共交通網形成計画について

[まちづくり推進部長 あいさつ]

1 3 : 3 5

[まちづくり交通課長説明]

1 4 : 0 5

[質 疑]

<酒井委員>

地域公共交通網形成計画の施策を進める経費はどうするのか。

<まちづくり交通課長>

現在の亀岡市の単費負担額は約7,000万円であり、これを基本に取捨選択する中で施策を展開していきたい。また、アンケートにおいて、約64%が現行の負担額で事業を進めていくべきとの結果であったので、そのように進めていきたい。

<酒井委員>

タクシーの助成に関して、健康福祉部はどのような意見であるのか。

<まちづくり交通課長>

福祉施策も合わせて議論するために、地域公共交通会議には健康福祉部がオブザーバーとして入っている。10月29日の会議においては、特に意見はなかった。

<酒井委員>

地域公共交通会議の中で健康福祉部から意見がなかったのはなぜか。

<まちづくり交通課長>

福祉施策と公共交通施策で実施している方向性は違うかもしれないが、地域公共交通会議の中で意見があったすべてのものを実施するのではなく、それらを整合させながら精査していきたいと考えている。

<酒井委員>

福祉部門と連携し、施策をしっかりとすり合わせしていただきたい。

<まちづくり交通課長>

そのようにしていきたい。

<福井委員長>

地域公共交通網形成計画については、福祉、観光についても盛り込んであり、進歩していると考ええる。

<小松委員>

地域別、地区別のデータはあるのか。

<まちづくり交通課長>

資料1のP5に記載しているとおり、データとしては亀岡地区、篠地区、つつじヶ丘、川東地区、大井・千代川地区、西部・中部・南部地区に分けて記載している。これよりも小さい単位のデータも持っているが、ここでは大きくりのデータとして記載しているものである。地域公共交通会議委員から、町ごとのアンケート結果を求められた場合には提供している。

<小松委員>

西つつじヶ丘では高齢化が進んでおり、今後5年で大きく変わると思う。計画は5年としているが、状況が変わっていくことへの対応はどうするのか。

<まちづくり交通課長>

5年としているのは、細かいサイクルで的確に捉えていくという意味である。2030年の人口動態をみると、60歳以上の人口と20～59歳の人口が同じくらいになると見込まれている。地域公共交通会議においても、ビックデータ等を活用しながら、今後の動向を見ていく必要があるという意見もある。

<福井委員長>

今年度までに、ガレリアかめおかへの乗換円滑化も実施されているが、ターミナルはJR亀岡駅だと認識しているのか。

<まちづくり交通課長>

地域公共交通網形成計画の内容と整合させることとしており、中心拠点はJR亀岡駅、地域拠点は他のJR3駅、また、地域の交流拠点は京都学園大学としている。

<福井委員長>

亀岡駅北が整備されれば使えるようになると考える。また、亀岡運動公園の方向性はどのように考えているのか。

<まちづくり交通課長>

亀岡運動公園は連絡場所であり、そのまま維持していく。

<酒井委員>

東別院町のデマンド交通はテスト的に実施しているが、方向性の結論は出たのか。

<まちづくり交通課長>

高齢化対策が各地域で必要となるので、地元を支援していく仕組みをつくり、市内各所に展開できるようにしていきたい。東別院町の方法を修正しながら、統一的な地域一体型の公共交通が新たな流れになると考えている。このことは、現在策定中

の計画においても議論している。

<酒井委員>

テスト運行されていたものが記載されているだけである。どんな効果があり、どのように波及させるのかがわからない。運行に当たっては無償とすることや500円を負担してもらう方がよい等の意見も記載されているが、地域公共交通会議の委員と結論を協議することとしているのか。

<まちづくり交通課長>

東別院町や鹿谷地区については、平成23年に策定した地域公共交通計画に基づき施策を実施している。新たな計画については、検証しながら進めていくべきだと考えているが、具体的に記述するまでには至っていない状況である。

<酒井委員>

記述する必要はないと思うが、現在の会議において、議論の俎上にのっていないとだめなのではないか。根拠を基に委員間で共有されておらず、事業案のどれをのせていくかについて考える材料が会議に提示されていない。今後どのように進めていくのか。

<まちづくり交通課長>

資料2のP20～21に、できたものとできなかったものを整理して記載している。前計画を継承しながら新たな計画を策定するように進めていく。

<酒井委員>

実施してどうであったかについて、きちんと話していくということであるのか。

<まちづくり交通課長>

その通りである。

<福井委員長>

JR亀岡駅に直接乗入れるようになれば、現在の公共交通網からすると画期的なことになる。渋滞や便数のこともあると思うが、ぜひがんばっていただきたい。

14:25

3 その他

(1) 委員長報告について

<福井委員長>

本特別委員会の4年間のまとめとなる委員長報告を作成したので、意見をいただきたい。

(委員長報告 朗読)

<酒井委員>

記載されている内容でいいと思うが、それを計画に反映させるためには、具体的にどうすればよいのかがわからない。優先順位をつけることと合わせ、今までやってきたことを検証しなければならないと考える。今は提言できるだけの考えがまとまっていないので、他の委員の意見を聞きたい。

<福井委員長>

「地域公共交通網形成計画に反映されるよう」ではなく、「地域公共交通網形成施策に反映されるよう」としてはどうか。

<小松委員>

「地域公共交通網形成計画に反映されるよう」でよい。また、公共交通網については、今後より重要になっていくので、しっかりと考えていかなければならない。こ

のため、「まちづくりと整合のとれた公共交通ネットワークへ見直し、再構築すること」という内容を委員長報告に追加してはどうか。

<福井委員長>

委員長報告は、正副委員長に一任いただきたい。

次回は12月7日（金）午後2時からとする。

—全員了—

散会 14:40